



畧譜

東

東儀

東條

豊徳

豊徳

伴野

二百一十一年

豊前

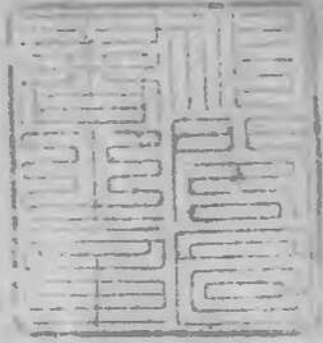
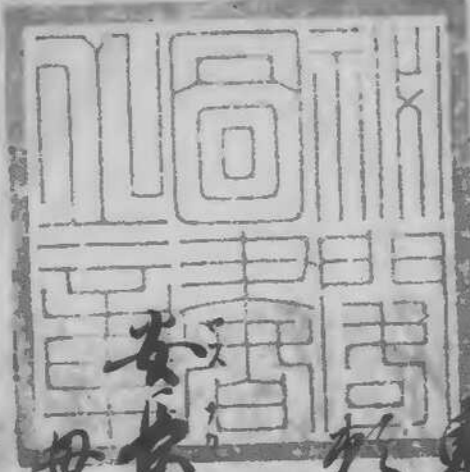
豊前

豊原

内閣文庫			
一五六函	三六〇八	和	香
九架	三二冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211(37)
函號	156 17

興



妻日野大内之輝資の女

母

東條信子

初羅之節義光之妻東條信子國後人
東條信子考于上代後流東條信子
於河世男東條信子行長之曾

東條 花菱
子之相
子之音三石年四石

記録御用所



文祿元年八月... 大和國... 石原... 利... 今... 亦... 為...

大和國... 太田村... 全... 也...

元和... 九月...

系...

大和國... 文祿元年... 大和國... 石原... 利... 今... 亦... 為...

政長

東条松之清 平三信

母 日野大綱之禪賢女

妻 加茂左之丞光直女

寛永二二五年八月乙未

右 徳流孫乙未 清貞乙未 同十月癸酉 年八月

日乙未

大 敏彦乙未 清貞乙未 同十月癸酉 年八月乙未

智小 善彦乙未 同十月癸酉 年八月乙未
日多 知平乙未 性乙未 上乙未 善彦乙未 同十月癸酉 年八月乙未
六月十日 病死 蔵乙未 同十月癸酉 年八月乙未

東條松之清 年乙未 平乙未

長矩

母 加茂左之丞光直女

妻 谷 大守乙未 衛波女

寛文二二五年十一月乙未 日乙未 家乙未 同十月癸酉 年八月乙未

石内之御所石下少若原之御所石下村藤
 源氏之御所分知父政長信寛文之庚申年
 二月日之御所住地。貞享四年卯年二月
 九日半人政の年月分知御所之御所住地
 年分知御所の御所住地。貞享四年卯年二月
 九日半人政の年月分知御所之御所住地
 感思格六月廿三日

東條信清子 礼 源氏之

寛文之四年十二月分知分知介
 東條源氏之御所住地

モトタカ 本高 東條平左衛門 平助

母 谷大寺子衛政女

妻 谷常日衛常女

妻 石月人妻女 貞享四年卯年二月九日

妻 谷常日衛常女

元禄六年七月五日自家智小若原の御所
 二百年二月九日御所住地之御所住地

身之月... 病死... 孫之... 孫

女子

當子... 孫... 孫... 孫...

祇長

東條... 孫... 孫...

如... 孫... 孫...

妻... 孫... 孫...

大... 孫... 孫...

享保... 子年... 二月... 永... 病... 寛... 〇... 四...

寛文九年八月十日
出所定三年八月十日
圓通寺 每

長岡 東條源太郎

寛文九年七月九日
東條源太郎

孝

寛文九年七月九日
東條源太郎

長行

東條源太郎 愚師 平太郎

母 林東源三郎の朝女

妻 藤田友三郎の清春女

元和三年八月十日
家智少僧清

同年十二月十日
家智少僧清

二月十日
示性地

大納言左衛門尉藤原公成の子藤原公成
子藤原公成の子藤原公成の子藤原公成
病死年三十九歳公成の子藤原公成

二九四〇年
実名氏藤原公成

東條氏

藤原氏

長明

春母藤原公成の子藤原公成

実母家女

妻 藤原公成の子

安永元年

安永九年己卯年十二月一日藤原公成

小書清。春母藤原公成の子藤原公成

和子藤原公成。春母藤原公成の子藤原公成

言。春母藤原公成の子藤原公成

春母藤原公成。春母藤原公成の子藤原公成

九月八日藤原公成の子藤原公成

三年七月十一日藤原公成の子藤原公成

女子 藤原公成の子

長堅

東條政之進

母 東條福之進長女

妻 東條少保長女

宣政九年己未九月...

某

東條信命

女子 是也

東條少保...

東條...

東條...

東條...

東條...

東條...

東條...

東條...

東條...

東條...

東條...

源姓

家紋

輪楸九曜

東條

言百...

里兄安...

...

...

...

...

...

...

元禄五年...
 元禄六年...
 元禄七年...
 元禄八年...
 元禄九年...
 元禄十年...

大形... 子... 子...

...

季延

東條... 初出... 橙吉史

元禄六年正月... 卯...

元禄七年三月... 卯...

元禄八年七月... 卯...

元禄九年五月... 卯...

元禄十年七月... 卯...

二月... 卯...

孝長

東條... 辨...

享保十一年十月... 卯...

享保十二年四月... 卯...

享保十三年十二月... 卯...

享保十四年十一月... 卯...

享保十五年三月... 卯...

享保十六年二月... 卯...

細入氏○同九月五日○死○享年○九十一

季勝

系傳程表

印了百字信

富原四戌年十一月十日卯辰○同如三戌年十

二月三日卯辰○安永二年三月十日卯辰

村式右的廿日卯辰○同四未年十一月十日卯辰

堀原大右の十二日卯辰○同八亥年十一月十日卯辰

堀原大右の十二日卯辰○同八亥年十一月十日卯辰

月廿一日卯辰○同七未年十二月十九日卯辰

日法和○多紀太田清方○同如○卯辰○同八申年

三月廿日田島舟人○同十二日卯辰○布衣名實取

大平月十日田島舟人○同初卯辰○卯辰○同七年十一月

季尚

系傳程表

印了百字信

三月三日卯辰○同九年九月十日卯辰○同卯辰○同三亥

年八月十日卯辰



源姓

家紋

五三桐

東條

言三百俵

信和天皇七代新羅三郎義光六代
一條治郎武敏守忠賴嫡男安房國
任人東條五郎言秀十五代傳中言
秋繁男

賴行

東條傳中言

屬三好修理吉長慶有戰功後年
 屬武田大膳吉長晴信及勝頼の天正
 十年年三月十日勝頼為平信長自害
 甲州亡城故不頼行流浪不其後里見
 元吉治義頼之麾下二好成王後病死

東條純信

行長

屬里見家孫多之少豊長秀長

13

托入元子組致軍志

権現様遠別濱松沖任城市沖目元子
 志水甲斐守竹腰筑後守多人大坂城
 致因乃後府城之在哉旨
 上之別後府城之致日乃之後大坂
 在由少之秀吉首勅氣亦後府城
 在哉
 権現様沖目見仕少之元子義成
 免許判發東條西郡法印少之元子

百石於大和公台好評頌の慶長十三
中年九月六日死年五十一

長頼

東條紀任子 初任官子

台徳院御沖代少事院番。寛永八年

六月五日死年五十一

長氏

東條十右馬 初甚十郎

台徳院御沖代少事院組。之後

少上洛。命少佐於京於相番。久具

頼母。少佐目付。及以論長氏。扱

入少事。少扱。石原。改易。

久徳院御沖代長氏科。後 冲免。三百年

少事院番。之後。病免。元禄。四年

六月廿日死。年六十一。青原。五十一

東條武玄傳

由長

最右院極御代初為行白書院番。寛文
十戌年七月十日死。年七十七。葬寺曰上

東條武玄傳

氏元

嫡孫家傳。

15

為憲院極御代。書院番。後病免。○德

二辰年六月院番。元文五年二月

二日死。年七十七。葬寺曰上

東條十左馬

賴致

三德二辰年六月家傳。享保二戌年

三月。書院番。延享元子年十二月

廿日。病免。○日三辰年四月。院番。○

明和七寅年七月二日死八十一歳寺
日三

伊波新太左衛門治昌治男

东條十玄衛

氏美

寛保二亥年八月廿六日^年薨子○延享
二寅年四月廿日薨子○寛延元年
二月廿七日小姓組○宝曆元年七月
十二日一同小童侍○日年十二月廿日景

16

性組の安永三年十二月廿八日病免○
日七戌年八月九日没后○同年十月
九日死卒古来寺日三

元氏初の敬志免

徳宗玄彦改貞好四男

东條十右衛門

初新十郎

頼傳

三三三三三

明和六丑年八月十九日^年薨子○安永七
戌年八月九日^年薨子○日九子年^{十二}六月
初見○寛政元貞年国六月十九

小菅信世後多被之尸各目亦作後〇口四
子年因二月十九日新規十人技指〇口五
未年六月十九日病死

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



源姓

源政 范 兼
五三桐

東條

五五石不條

新羅三郎義光末葉安房武行人東條
又郎言秀十六代之後亂東條伴禰与
頼行只代孫東條猪左衛門政長二男

正東

初長時

東條信濃与

初源右衛門

十三郎

寛文二寅年十二月九日又猪左衛門政長

高九百石余月六百石余之成地
東條楮玄清長能以下並二百石余
二男東條信清正甫分知同日十一
亥年九月十日大出書○元祿六年
十月九日小菅清康約組同日九年
十二月廿二日布衣同日十一宣年七月
左法國薩波郡志野郡新治郡同日
高九百石正甫合高六百石余同日
年十月上野

16

叡有院極 沖佛殿再造堂沖用○同十

二年二月廿七日諸寺同日十三年
六月十日福免寺合○室水壬子年八月
七日本石川山殿寺正德二年
九月十八日石川山殿寺正德二年
少免寺合○享保十五年三月同日
死七十八葉約也膳林寺葬

長賢

東條源左衛門

初孫

子孫

元祿十二年六月十一日初見○宝永
六年四月六日書院番○正徳二年
四月十日病歿○享保十五年六月
日○享保○元文大甲年十二月二日
陰辰○寛保二年九月二日死○千
代葉寺日記

19

長尚

東條平右衛門 早高 男
東條源五郎

享保十五年七月九日養子○元文
大甲年十二月三日養子○寛保二年
七月十六日大出高○寛延元辰年十月
九日新出番○宝曆六年七月晦日病歿
○宝曆九年二月九日死○早葉寺
日記

長祿

東條源左衛門

功小孫也

三子也百五在余

宝曆九年六月三日家督の御祝六

十年七月廿二日西丸出納戸○同八年

六月十日新出番の女永二三年六月七日

○同納戸○同年同月廿九日

孝恭院極小納戸○同年十二月十日布衣

○同八年四月十八日一統奉食○天明

20

元禄年四月廿一日小納戸○同年五月

廿八日西丸納戸○同年同月十八日

美濃極納戸○同文正年六月晦日為之苗○

同六年同十月七日小納戸○御供

○同和文子年十一月廿八日同八年正月

廿六日勝村 上流丸右左衛門

同和文七年十一月廿一日一統勝村 上流

今武敷○日九辰年二月廿九日大納

上流丸時辰二○天明八年十一月十八日

小笠原 冲成 少休 与 乡 村 多 时 服 三〇

寛政十年年二月晦日

良元院 御 出 度 利 由 勤 比 有 幸 物 三

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



21

深此

东條

先祖元祥

家紋

尾内 駿 宗

了 國 百 儀

道兼

东條平兵衛

加茂 左 三 郎 右 左 位 〇 病 死

心後

东條平兵衛

新 魚

探 母

大徳元極行代以終るも妻有後七高妻若

子ら作すの

妻有後極行代終りしと云生と苗字も改

百中後

の事永以て其年より其九年西暦中其の

美通

東條と改政宣生其の八思成新政師

其の作すの同年より九年西暦

其の同六五年より其日一信も其後

口年八より其年より其年其後其の正徳三

己年より其日病免の口年より其

隠居の重保九辰年より其日死す其
清原清光手其

道深

二男

重保平在集

今保

正徳三己年より其日初見の口年

其の九年其後其の重保九辰年其

其日其後其の元文六年其年其

其の九年其後其の寛保三年

皇正三年九月廿三日
中ノ九月廿三日
皇正三年九月廿三日

中ノ九月廿三日
皇正三年九月廿三日
皇正三年九月廿三日

皇正三年九月廿三日
皇正三年九月廿三日
皇正三年九月廿三日

皇正三年九月廿三日
皇正三年九月廿三日
皇正三年九月廿三日

23

皇正三年九月廿三日
皇正三年九月廿三日
皇正三年九月廿三日

乃有

皇正三年九月廿三日
皇正三年九月廿三日
皇正三年九月廿三日

三二回寺

乃費

東條若十郎

安永六年申年ナリ在る次男惣次郎の夫
明三郎年六ナリ同方惣次郎の妻次郎の
子ナリ申年初見の同年ナリナリナリ
安永六年の同一年ナリ八百四十年
ナリ同方惣次郎の同一年ナリ八百四十年
同方惣次郎の同一年ナリ八百四十年

奥の巻

高武百俵



秦姓

東儀

秦收 凡内萬
又指棟

了二百債

秦以皇帝征代秦門勝之子原

東儀姓前子兼定坊男

兼顧

東儀姓前子

禁裏樂人

秦範

東儀派十帝

主校印

内庭

寛保五年正月 兼房 兼房 兼房
石井人持持 同 己亥年十二月 兼房
又持持 同 己亥年十二月 兼房
同 己亥年十二月 兼房
甲府勤番 九月 兼房
又月 兼房
安寺

兼房

同 兼房

東儀之礼

寛保之元年 十二月 兼房
同 己亥年十二月 兼房
同 己亥年十二月 兼房
同 己亥年十二月 兼房
同 己亥年十二月 兼房

兼房

同 兼房

東儀之礼

兼房

同 己亥年十二月 兼房
同 己亥年十二月 兼房
同 己亥年十二月 兼房
同 己亥年十二月 兼房
同 己亥年十二月 兼房

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]



○

○ 秦姓

東儀

家茂

二色

下茂

字二百儀

河勝秦之乃、東條因幡子兼人
佐流在儀流流子兼津島男

東儀在之而

源后 外

兼禮

禁書兼樂人分延元七、壬午年十月、
初、元禄十五年十月、
人、秋、持、月十七、申、年、二月、

[Small handwritten characters at the bottom left corner.]

永六廿年二月五日... 保正... 二月十日... 二月十日... 二月十日...

兼興

兼興... 東儀... 二月十日...

二月十日...

西德... 兼興... 二月十日... 二月十日... 二月十日...

死... 二月十日...

兼善

東儀... 二月十日...

二月十日...

二月十日...

寶曆... 二月十日... 二月十日... 二月十日... 二月十日...

養賢

東養

東儀仁等

小膳

寛政二年三月廿八日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

平姓

家紋 五七桐 九曜

東

高二百俵

家業幼科

家業幼科 高二百俵

良流

東宗

天和元自年三月廿六日

西九月廿五日

西九月廿五日

元禄十三年九月十日

○室永三戌年七月廿七日 改任○同十月廿九日 死 后 中 長 之 院

皇流

東宗系

皇祐

室永三戌年四月十四日 改任○同七月廿七日 死 曾 守 命 ○安永二乙年四月十二日 死 七十六 早 年 日 守

邦系

東宗系

三三 倍 三 十 人 持 持

室永三乙年二月廿七日 改任○安永二乙年

十年四月廿二日 改任

同三月五日 改任 小 弟 活 ○天明七年九月

廿九日 改任 弟 寬 政 七 年 四 月 廿 九 日 死 五 年 增 日 守

流后

東宗系

室永三乙年元 連 守 改 任

天明七年二月廿五日 改任 ○安永元年

八月十九日 改任 同 七 年 四 月 廿 九 日 死 五 年

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

源姓

家紋

招皮菱
唐之丸
日足

伴野

予三百年日記

信濃國役人伴野徳吉の自序

稿子

伴野徳吉

自序

始武国家属大正十年年

程現福江兵衛吉野江陣山佐の関ヶ原
山信江以南城涉番の慶長十六成

年 龍佐良死

伴野道成助

自明

上員殿地... 龍佐良死... 伴野道成助... 龍佐良死... 伴野道成助... 龍佐良死... 伴野道成助... 龍佐良死... 伴野道成助...

伴野道成助

自明

自明

元和四年... 龍佐良死... 伴野道成助... 龍佐良死... 伴野道成助... 龍佐良死... 伴野道成助... 龍佐良死... 伴野道成助...

伴野道成助

自明

深保二年... 龍佐良死... 伴野道成助... 龍佐良死... 伴野道成助... 龍佐良死... 伴野道成助... 龍佐良死... 伴野道成助...

某

伴野江守

半人正長前日人無成江守為上家言
此上心腹汝易家地

某

伴野江守

神田江守出莊組多次の事又於乙午年助
業者生之系及易家地

貞敏

伴野江守

半九郎

51

元禄己未年一月廿六日酉年正月
十日相ノ房出番の月七月二十日出納戸の
月八日十日廿五日の月廿七年一月九日
書屋番の月一箇年一月廿七日死日守葬

貞為

伴野江守
貞為

元禄十箇年六月廿七日酉年七月廿八日
在野の家永元申年六月廿七日出納戸
取の事保一箇年九月廿七日取後府

左若先死之後其年日等

伴野友之助 徳和 三原

自然

享保二百年十二月廿五日家持の月十二年
月廿五日家持の月十二年四月
二百病欠の宝曆七十年十二月廿五日
同享保二百年十月廿六日死治也大島守兼

伴野友之助 徳和

負長

宝曆七十年十二月廿五日家持の月十二年
六月廿五日家持の月十二年十二月
七月病欠の月九年十二月廿七日病欠
の月十二年十二月廿九日病欠の月九年十二月
廿九日病欠の月九年十二月廿九日病欠の月九年
十二月廿九日病欠の月九年十二月廿九日病欠の月九年

伴野友之助

負次

安永九年十二月廿九日病欠の月九年

年九月庚申日書院西の門^五年十一月
月二日病乞の竟政之元年十二月
隱居

貞顯

伴野原の

言の孫^三名 成徳中

竟政之元年十月十九日在侍日八年二月
攝方初之

35

貞顯



源姓

家紋 松皮菱

伴野

言百後之人 棟杯

伴野六郎時長十代任播磨國人

伴野能事言自勝嫡子

貞吉

伴野對言

武田家之屬天正十年

控領原^三言^五言^七言^九言^{十一}言^{十三}言^{十五}言^{十七}言^{十九}言^{二十一}言^{二十三}言^{二十五}言^{二十七}言^{二十九}言^{三十一}言^{三十三}言^{三十五}言^{三十七}言^{三十九}言^{四十一}言^{四十三}言^{四十五}言^{四十七}言^{四十九}言^{五十一}言^{五十三}言^{五十五}言^{五十七}言^{五十九}言^{六十一}言^{六十三}言^{六十五}言^{六十七}言^{六十九}言^{七十一}言^{七十三}言^{七十五}言^{七十七}言^{七十九}言^{八十一}言^{八十三}言^{八十五}言^{八十七}言^{八十九}言^{九十一}言^{九十三}言^{九十五}言^{九十七}言^{九十九}言^{一百}

○慶長十八年秋年能事言死

貞明

伴野道俊并

上皇之御孫也。在位之時。曾見之。大德。及
平康。正信。元和。元年。年。德。始。之。德。將。九。為。
德。之。大。朝。之。敏。也。為。所。以。知。德。及。今。德。始。仕。
於。上。皇。也。德。河。也。以。上。之。名。也。御。旨。德。始。下。之。
元。文。九。箇。年。一。月。之。死。於。德。始。也。

貞昌

伴野九郎并

元和。四年。年。在。德。之。月。八。成。年。德。河。大。朝。處。
皇。朝。之。元。昌。永。十。箇。年。一。月。和。昌。也。上。皇。之。
年。也。德。之。月。十。三。子。年。以。上。也。武。以。忠。也。子。
之。旨。也。德。始。皇。也。皇。德。始。也。元。文。之。一。箇。年。大。朝。
番。之。月。之。子。年。病。也。之。元。和。也。皇。年。一。月。
十。百。死。系。在。別。

貞秀

伴野次并

廣安。四。箇。年。一。月。之。日。德。始。也。皇。也。皇。也。

武百儀出書院の由の竟文十二子年一月月
死に公名沙谷守年

○
貞家

言
伴野右衛門

天和一戊年橘田屋上杉就山半人百儀文
扶持の元禄十二年山内戸の室永元申年
西尾の廣海海告の同百申年十月十日
但の同申年十二月十日増田扶持下松右儀
旅人扶持の享保十二年申年病免の元文之

申年四月十日死七拾八歳一月守年

貞家

伴野新助

享保十三年十月十日申半人組百儀扶持
持の元文二年四月十日死四十三の竟保
之百申年七月十日申半人組以室曆十三年
十二月十日死七拾八歳一月守年

貞家

英伴仲八右衛門守年
伴野新助

之文二百年十二月八日孫輝表子之室曆二
己年正月十二日家譜の月年八月六日半
人組の月十二年十二月十日

孝養院櫻庭の月十二年十二月十日病死の
明和二年十二月二日死に終歲同寺葬

頁一

伴野新助

控六郎

明和二年十二月十日家譜の月八年
正月十日家譜の月八年八月十日

六百九十九勤の元五年一月十日百西丸
初の日五年八月十日死に終歲同寺葬

其後田又家好古四男

伴野新助

初七郎

貞平

三百儀拾人校持

天保二年十二月十日家譜の月八年
三年十月十日家譜の月八年十月十日

九月十日家譜の月八年十月十日
九年十月十日家譜の月八年十月十日

天保二年十二月七日二月七日悔日大助所
後二年後三日

Handwritten text in a vertical column, likely bleed-through from the reverse side of the page. The characters are faint and difficult to decipher.

39

貞吉



源姓
伴氏

家紋
三三三
三三三

新所三郎為亮分出伴中六郎時長後
流信徳國任人伴中能登与貞吉長男

對了也

貞吉

始成田家位の天正十年古公國系
御信位列之國城山友の意長十一年
死

貞明 付申渡後助

上及新行不... 出の大坂... 俾九代... 貞明... 俵宗... 八歳... 貞明

40

貞昌 付申渡後助

元和四年... 貞昌... 貞昌

貞秀 付申渡後助

貞秀... 貞秀

山書院友三二百俵○寛文十二子年二月
十八日死山書院龍國寺葬

廣
貞武

信中物事助

寛文十子年 松田山書院組○同十二子年
山書院友三二百俵○山書院六子年山書院友○
貞武三子年山書院友○元禄九子年
小寺八子年○寶永元年中年而九相乃山書院○
山書院三年山書院友○貞保六子年山書院

○同十二子年八子年而死山書院葬

貞房

信中物事助 初子年助

元禄八子年三月松田山書院初見○同
十二子年三月松田山書院組○同十六子年
三月山書院二百俵○元永元申年三月
二百俵焼火乃山書院○同六子年十月
九日大田友○貞保十二子年正月山書院
組○元文元存年六月山書院友

死大坂新 長守宮深

貞勇

侍中助之部

源右衛門

元文元年九月廿九日有外宮の因三年
三月廿九日有大坂の因三年七月十
八日初死の宮曆十七年三月廿九日
○西和六年九月廿九日初死の安永二年
四月廿九日初死の天明二年十一月廿九日
卒之氣
因右記之部

42

貞康

美初格才右衛門左衛門

侍中助初右衛門 源右衛門

安永元年十一月廿九日初死の因三年
八月廿九日初死の因三年十二月廿九日初死の
天明二年二月廿九日初死の安永二年
十月廿九日初死の六年三月廿九日初死の
安永二年八月廿九日初死の安永二年
五板



Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

源姓
信也

家紋
高百俵
九折皮菱
唐花

新羅帝義光方出信也而時長後胤
信德國任人信也社中旨國書長男對旨旨
貞若二代信及助貞四三男

貞輝

信也三流所

万治三亥年八月廿日松田山殿
半人組百俵口實文元五年十月廿日半俵

山形藩の世宗二年三月九日同族の同年
十月八日山形藩七條儀の天和二年山形藩
五年の貞享二年二月廿日死年九十
池田寺に葬

貞晴

信長之弟

山形藩

貞享三年七月九日山形藩の
山形藩の元和三年九月廿日死年九十
寺

貞長

貞祥之弟

信長之弟

元禄二年三月廿日山形藩の
山形藩の元和二年七月廿日死年九十
寺

貞光

貞信之弟

信長之弟

初平

山形藩

元禄二年三月廿日山形藩の同年
七月十日山形藩の同年七月廿日山形藩

友の嘉永元申年十一月十日薨御出候
九徳大寺方申取の因に五年十月十九日奉書
○寛保十七子年十一月十日薨御免の寛保三
亥年八月十日死六十六歳回寺

実体中元子年三男

付申上候

貞勝

寛保九辰年十一月廿七日薨御
○寛保三亥子年十一月廿七日薨御

45

死年二歳回寺

実体中元子年三男

付申上候

初平次郎

貞辰

正享元子年十一月廿二日薨御
○同二丑年八月十日薨御
○同三寅年八月十日薨御
○同四卯年八月十日薨御
○同五辰年八月十日薨御
○同六巳年八月十日薨御
○同七午年八月十日薨御
○同八未年八月十日薨御
○同九申年八月十日薨御
○同十酉年八月十日薨御
○同十一戌年八月十日薨御
○同十二亥年八月十日薨御

貞真

侍中平次卿

高二百俵

四和七寅年十二月六日在洛○天照天皇
二月十日大出普宣及八年四月三日新
日九年又月十日(辨州)上院之(辨)二
皇年九月五日(辨)所

貞安

侍中平次卿

天照天皇九月五日(辨)所
九月十五日(辨)所

46

源姓

源姓

日足 九曜

伴聖

高二百俵

清和天皇九月五日(辨)所

侍中平次卿

貞吉

侍中平次卿

新羅三平(辨)所
以(辨)所
聖(辨)所

去と長峰成田迄多勝頼与代爲好○
天正十年年以石出奥列也陣休子○并示
休子 信長上田城在番○云云七年三月
云云死

復明 伴聖徳助

常之上列知以不之信者云甲之兵出以自云
○大坂あは保○元和四年年阿比○好
海河大内之云云云信云下○寛文九年

49

西月二日死八歳

貞昌 伴中左衛門 之旨

元和四年年在奥の同八戌年移河大内之
殿山附山納戸の寛永十百年移河大内
松平和泉守と同年山領○同十子年若
出之百卒石出組の寛文之介年移河大内
○同十子年病免○元禄四年年二月十日
死

貞秀

付中法堂

享和二年十月二日遷西之松田殿

之乃附以之院友

貞輝

付中法堂

万治二年八月廿八日少人

貞次

付中法堂

享和二年九月廿七日

貞宗

付中法堂

48

享和二年九月三日初見○同九月廿日

小主人百像○万治二年病免○寛文二

年十一月十日死弱之大系寺

貞宗

付中法堂

貞素

寛文三年十一月廿七日○寛文四

年十一月十日家傳○天和元正徳九年

二月廿六日少人○元禄十五年三月

十八日移西之松田殿百像於合沙白字

五徳二年○元永五子年 七月廿五日
○五徳三年十月廿五日死年一歳日守

貞照

五徳三年八月廿五日死年一歳日守

五徳三年十一月廿五日死年一歳日守
年六月十八日死日守

貞祥

五徳三年八月廿五日死年一歳日守

七ノ助

49

正法四年年五月廿三日死年一歳日守
五徳三年十月廿五日死年一歳日守
五徳三年九月廿三日死年一歳日守
五徳三年八月廿五日死年一歳日守

貞重

五徳三年八月廿五日死年一歳日守

五徳三年八月廿五日死年一歳日守

○延享二年卯年八月十三日死

貞彦

伴時正

貞貞

三子

延享二年卯年八月十三日死 ○室屋五三郎
十一年同寺

貞彦

伴時正

三子

40

延享二年卯年八月十三日死 ○室屋五三郎
十一年同寺

貞園

貞園者虎印之實三男
伴時正

寛政九年二月七日没

[Faint, mostly illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.]



源姓

家紋

北内笹藪
古三桐

伴野

高武尊宗三侯

新元之節義光下古伴野至部中胸
時長流胤信濃國臣人伴野者有吏
系系流

伴野者有吏

常次

右徳信源孫少古古古廣海每の号又每西事

法揚院極意為所出唐海香の事元九
年十二月日号死七程古事山谷子米村長
國守身

伴野津助

常長

百治之子年二月十八日半人相の事元九
年十二月十八日在唐或百日指唐儀の月十
年十二月十八日在唐或百日指唐儀の月十
年十二月十八日在唐或百日指唐儀の月十

分

二百兩中人の事元九
年十二月十八日在唐或百日指唐儀の月十
年十二月十八日在唐或百日指唐儀の月十
年十二月十八日在唐或百日指唐儀の月十

伴野津助
十郎

常清

元九
年十二月十八日在唐或百日指唐儀の月十
年十二月十八日在唐或百日指唐儀の月十
年十二月十八日在唐或百日指唐儀の月十

日二箇年皇國月多、
 十月移、
 〇享保二箇年十一月廿八日死、
 葬

伴野之祝

常直

享保二箇年十一月廿八日死、
 〇享保二箇年十一月廿八日死、
 〇享保二箇年十一月廿八日死、
 〇享保二箇年十一月廿八日死、

43

〇享保二箇年十一月廿八日死、
 〇享保二箇年十一月廿八日死、
 〇享保二箇年十一月廿八日死、
 〇享保二箇年十一月廿八日死、

伴野之祝
 常直

常直

〇享保二箇年十一月廿八日死、
 〇享保二箇年十一月廿八日死、
 〇享保二箇年十一月廿八日死、
 〇享保二箇年十一月廿八日死、

常珍

伴野村次

三之助百三拾五歳

宝曆十三年申年二月廿六日海軍惣隊の御札
年六月二十日家督の御札
甲府納戸
四番八月九日壬午年六月十日
庚午十二月十日
三月廿二日納戸
雲川用日九年二月十日
同七月十八日
日之出法事相

54



源姓

家紋 丸内笹薙

伴也

三之助

新羅三帝の御札より出付申上り申上り
亂付申上り申上り常次二男

常表

伴也思石屋

西曆二十二年十一月十日
○延宝七年十一月十日

高永元申年十一月十日
高永元申年十一月十日

山和坊百俵の同二百年二十日死凡由
切年直院の西徳二石年二十日死凡
由東山直院布衣の京深五石年二十
十日死凡由藤原氏三石の同七百年
二十日死凡由十二歳下石長國寺三歳

乃八徳力
天徳園吉本傳多行三子
信仲長次郎 惣大徳

常知

嘉永元中年七十一日解若子の同二百年

終

土り古分初見の同六五年甲子六日書
院敷の元文三年八月廿九日死中宗
同寺

常言

信仲長次郎

寛保十七年九月九日初見の元文三
年年土り二十日死若子の同六十年甲
子死同寺二十五歳

常暗

実守

付中惣右衛門

宗門

元文六 申年七月三日在室の宣旨保三
 年二月十九日因安勤由の定章二丑年
 二月廿九日為元小性組の同三寅年付
 十七日病免の寛延二己年二月廿二日書
 院友の宣旨九年二月廿三日在見
 旨勤之意翌十六日全三夜の寛政六世
 三月廿九日老免の同十年八月十八日死七

九

十六歳同寺

常珍

傳建甲之丞

為二百俵

以和六 丑年十月十六日初見の寛政二成
 年四小性組の寛政六己年九月廿四日
 檢測之覽五兩二の同八辰年五月十日
 大細之概出附の同十年八月十八日死同寺



友堂姓

友堂

友堂子常商民和通子光通流

近江國近人友堂九常通子良通流

孝子

友堂賜名 九郎太夫

良家

母家

妻友堂良通女

△
 此書一巻
 五巻七巻上世之
 世三行威成一着し
 知入見之明威ヲ脱ヒ
 一ノ下ナリ
 文字ニ化一能ク存
 之教ニ依リテ
 後世ニ存ト号方
 之ハ然白
 於得
 事ニ
 二
 長
 信
 事

養父右衛門正五郎左衛門正信の子長
 國信の長子長元
 家信の長子長房

長元
 長房
 長房の子長兼
 長兼の子長成
 長成の子長高

長高の子長隆
 長隆の子長茂
 長茂の子長基
 長基の子長俊

長俊の子長家
 長家の長子長景
 長景の子長良
 長良の子長俊

長俊の子長家
 長家の長子長景
 長景の子長良
 長良の子長俊

長俊の子長家
 長家の長子長景
 長景の子長良
 長良の子長俊
 長俊の子長家
 長家の長子長景
 長景の子長良
 長良の子長俊
 長俊の子長家
 長家の長子長景
 長景の子長良
 長良の子長俊
 長俊の子長家
 長家の長子長景
 長景の子長良
 長良の子長俊
 長俊の子長家
 長家の長子長景
 長景の子長良
 長良の子長俊

佛子長元...
 二ノ下ナリ...

控現極言之云云の頃年也或眼病らぬ
眼盲或智狂成り身初の云と南都白毫
尸の右海正の月也云云云云云云
身之云云の頃年二月六日病死葬
身命の云云云云云云云云云云
信重深云云

元業主善次

云云

良政

善年の良信長任の後秀吉治世は別後
善方の中石の中石の善方の善方の善方の
関白秀次の治世秀次の治世秀次の
切獲極言の頃南都白毫の頃南都白毫
次は日公の治世治世治世治世治世
之有る在誠は治世治世治世治世治世
治世治世治世治世治世治世治世治世
治世治世治世治世治世治世治世治世

五世新 冲和子之有胤茂乃伊集方采与皆
在也乃其故也乃其胤茂乃伊集方采与皆
伊集方采与

五世新 冲和子之有胤茂乃伊集方采与皆
在也乃其故也乃其胤茂乃伊集方采与皆
伊集方采与

新也并連之其乃其胤茂乃伊集方采与皆
在也乃其故也乃其胤茂乃伊集方采与皆
伊集方采与

其

後
伊集方采与

主善以婦子之口在公曰若和泉子之口凡
妹善也仕女子之口今乃之口也之口也
二千果之口也果之口也主善也次也之口也
汝武也汝也仕也汝也汝也汝也汝也汝也
汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也

英皇改元男
老童將監

皇以

母之口也汝也汝也汝也汝也汝也

素和泉豐後乃重以女

主善以皇改元男之口也汝也汝也汝也
汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也

五河新之口也汝也汝也汝也汝也汝也
汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也
汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也
汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也
汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也
汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也
汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也
汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也
汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也
汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也汝也

のり和泉と方々豊後と方々所抄と云ふ
三月八日甲子日天の川に土着の戸城は
大月公の文少和藤より一河清藤原の在
所は在藤原三年甲午に少将日守より
但次公は月四の所より少将の年名を
取らざる公大和の方より長官屋敷知戸
布施抄より大和の電の古抄の取らる
大和の志書に依りて道節の抄に依りて
人改の抄に依りて大和の電の古抄の取らる

福原伏見と云ふ名を以て此の山を以て野合と云ふ
細及之と云ふ所は此の山に在りて未だ書
りしは甲午日天の川に土着の戸城は
大月公の文少和藤より一河清藤原の在
所は在藤原三年甲午に少将日守より
但次公は月四の所より少将の年名を
取らざる公大和の方より長官屋敷知戸
布施抄より大和の電の古抄の取らる
大和の志書に依りて道節の抄に依りて
人改の抄に依りて大和の電の古抄の取らる

清公前上書の辭は其の其河内河原
とある書に依りて其の其河内河原
字に夜人の夜を言ふなり其の其河内河原
の河内河原は此の如く夜に直ぐは
從ふの意に多し其の其河内河原は
伏見の老に

西所新建 上南 河内 河原 河原
其の其河内河原は此の如く夜に直ぐは
從ふの意に多し其の其河内河原は
伏見の老に

其の其河内河原は此の如く夜に直ぐは
從ふの意に多し其の其河内河原は
伏見の老に

一日智乎台之押分有六和之河内國分
陣松倉重隆之國分之河内先年之
夕力工夕陣九之國分之河内先年之
陣九之河内先年之河内先年之
美事打極其先物恐難成有退陣之
松之河内先年之河内先年之
成廣之河内先年之河内先年之
河内先年之河内先年之河内先年之
河内先年之河内先年之河内先年之

押分有六和之河内國分
陣松倉重隆之國分之河内先年之
夕力工夕陣九之國分之河内先年之
陣九之河内先年之河内先年之
美事打極其先物恐難成有退陣之
松之河内先年之河内先年之
成廣之河内先年之河内先年之
河内先年之河内先年之河内先年之
河内先年之河内先年之河内先年之

一騎突依りて首ヲ取らば其山守は命
少池七歳討死官守は首取角長角長
之也了前後お初い書る要後等とて、口
くも、川邊大海をとり戦ひぬる満い所
歌中、五切近來將監も、世邊、戦てり、
い如、小溝橋掛い所、玉松倉、豊後、
田中、有、書、多、合、戦、い、
松倉、十、倉、の、大、師、也、
与、多、の、果、右、田、部、之、師、也、
今、の、所、也、

將監、其、其、城、江、其、加、角、角、
之、外、豊、後、与、中、者、少、池、
之、敵、く、大、池、之、
之、勝、之、矣、い、
目、向、之、
施、
勝、
之、
之、

大和國高市郡

曲川村五ノ後石屋敷

坊城村二首九指或石

小澤村首首石屋敷

陸奥郡石屋敷

と石屋敷(完全)

知(完全)

寛永三

十一月 沖田下

石屋敷(完全)

石屋敷(完全) 石屋敷(完全) 石屋敷(完全)

石屋敷(完全) 石屋敷(完全) 石屋敷(完全)

石屋敷(完全) 石屋敷(完全) 石屋敷(完全)

石屋敷(完全) 石屋敷(完全) 石屋敷(完全)

石屋敷(完全) 石屋敷(完全) 石屋敷(完全)

石屋敷(完全) 石屋敷(完全) 石屋敷(完全)

石屋敷(完全)

行はるるはつとておのれはくさし
おしてそののこもはるるうらたひ
そのと人かかろはるるはるる
しつとておのれはくさし
そのと人かかろはるるはるる
しつとておのれはくさし
そのと人かかろはるるはるる
しつとておのれはくさし
そのと人かかろはるるはるる

59

しつとておのれはくさし
そのと人かかろはるるはるる
しつとておのれはくさし
そのと人かかろはるるはるる

印

純利

友の啓

しつとておのれはくさし
そのと人かかろはるるはるる
しつとておのれはくさし
そのと人かかろはるるはるる

Handwritten cursive text on the right page of an open notebook. The text consists of several vertical columns of characters, likely a journal entry or a letter. The writing is dense and fills most of the page's text area.

Handwritten text in the middle-left section of the right page, appearing as a date or a specific reference.

Handwritten text in the bottom-middle section of the right page, possibly a signature or a concluding note.

Handwritten text on the left page, starting with a date that includes the month of July. The text continues in several vertical columns.

Handwritten text located in the middle-left section of the left page.

Handwritten text in the top-left corner of the left page.

Handwritten text in the middle-left section of the left page.

Handwritten text in the bottom-left corner of the left page.

花堂三子

太郎助

○

良利

家夜不の酸漿
九生作

了女子名

女 松倉豊後守重政女

妻 日根野左重女 女

家子 日根野左重女の子名 子名

兄 日根野左重女の子名 子名

但 寛文二寅年二月九日 病死 於松島月

守 子 名

71

良忠

花堂平吉

別院 河内守

良直

妻 日根野左重女 女

妻 日根野左重女の子名 子名

妻 日根野左重女の子名 子名

正徳二戌年 四月廿九日 病死 於松島 七月

友人言... 西曆一千九百零九年
正月八日... 西曆一千九百零九年

一 和歌
一 津島...
一 福祿壽

一 母不敬
一 津色紙
一 櫻三野鳥
一 津小サ口
一 梨子地帯名電

自序

友堂之馬

...

母者堂之了良利女

伊能素山也其師重堅也

元享和六年三月廿九日

病身有血切来云云上院后は心淫云云

有月十日病死没長歎云云

之良利之男

有堂紀後也

其師 伊能

良端

伊能也

伊能也

母 素山也其師重堅也

24

素山也其師重堅也

有堂紀後也

元禄十二年二月十日没長歎云云

享和六年三月廿九日病死没長歎云云

有堂紀後也

其師 伊能

有堂紀後也

其師 伊能

其師 伊能

友堂此後与

谷子市 三子

事由

母 卯申伊地子大屋妹

妻 卯申伊地子大屋女

元文三年二月九日 貞觀の室曆二申
年八月廿三日 家督の室令の月二酉年九月
廿八日 伊地子の月年十月六日 伊地子の月九
卯年十月廿三日 伊地子の月年十月

95

大谷流太夫の月年十月九日 伊地子の月年
元文三年二月九日 伊地子の月年十月九日
卯年十月廿三日 伊地子の月年十月九日
卯年十月廿三日 伊地子の月年十月九日
卯年十月廿三日 伊地子の月年十月九日
卯年十月廿三日 伊地子の月年十月九日
卯年十月廿三日 伊地子の月年十月九日
卯年十月廿三日 伊地子の月年十月九日

良筆

友堂此後与

谷子市 三子

母 卯申伊地子大屋妹

素直極を以て高文師 類別

高文師 類別

宝曆十一年一月廿七日

以迄之宛九平社の四社一頁年十二月八日

法名又の以女子年十二月廿七日

酉年十二月廿七日

六日 津金達了の月

月九子年一月廿七日

月廿七日

院番次

界例

高文師

良真



良子 敬之 人

79

若東姓
若東

家牧 堂ノ字崩ニ
三羽鳥
九三子行 三藏持水

若東之御覽之良子也

良子

若東之御覽 左門

若東之御覽 左門
良子之御覽 左門
良子之御覽 左門
良子之御覽 左門
良子之御覽 左門

大正九年九月廿九日

庚宗

友堂 徳吉 徳五郎

大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日

大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日

庚宗

友堂 徳吉 徳五郎

大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日
大正九年九月廿九日

月正の切米之百俵の世帯三箇年
三月十日の御書付之御書付年八月
後御書付の御書付年八月
御書付の御書付年八月
御書付の御書付年八月
御書付の御書付年八月
御書付の御書付年八月
御書付の御書付年八月
御書付の御書付年八月
御書付の御書付年八月
御書付の御書付年八月

字年七月十日の御書付年八月

御書

御書付年八月

之御書付年八月十日の御書付年八月
御書付の御書付年八月十日
御書付の御書付年八月十日
御書付の御書付年八月十日
御書付の御書付年八月十日
御書付の御書付年八月十日
御書付の御書付年八月十日
御書付の御書付年八月十日
御書付の御書付年八月十日
御書付の御書付年八月十日

良德

仁徳神皇
天皇御紀
有皇御紀

正名 孫三郎

湯井 了山

皇孫八年三月十日
皇孫九年十二月十日
皇孫十年三月十日
皇孫十一年三月十日
皇孫十二年三月十日
皇孫十三年三月十日
皇孫十四年三月十日
皇孫十五年三月十日
皇孫十六年三月十日
皇孫十七年三月十日
皇孫十八年三月十日
皇孫十九年三月十日
皇孫二十年三月十日

50

良安

有皇御紀
一節 古伝

皇孫七年三月十日
皇孫八年三月十日
皇孫九年三月十日
皇孫十年三月十日
皇孫十一年三月十日
皇孫十二年三月十日
皇孫十三年三月十日
皇孫十四年三月十日
皇孫十五年三月十日
皇孫十六年三月十日
皇孫十七年三月十日
皇孫十八年三月十日
皇孫十九年三月十日
皇孫二十年三月十日

三

皇孫二十一年三月十日
皇孫二十二年三月十日
皇孫二十三年三月十日
皇孫二十四年三月十日
皇孫二十五年三月十日
皇孫二十六年三月十日
皇孫二十七年三月十日
皇孫二十八年三月十日
皇孫二十九年三月十日
皇孫三十年三月十日

九月乙未朔戸。日正一年十二月百
宗社。四和七。當年一月也。為九月社
改。五。安。八。五年一月也。

孝慈皇后崩。葬。神。有。日。月。九。九。落。後。○
日。年。日。月。大。日。中。朔。方。天。河。之。西。年
有。日。八。公。為。九。宗。社。改。五。○。主。向。之。西。年
有。日。之。○。主。業。也。給。也。飲。○。日。年。七。月。也。百
在。日。○。日。也。在。年。一。月。也。之。主。也。也。也。
○。日。年。一。月。也。主。○。死。日。也。也。也。也。也。也。

洋書寄事

博信信原素許。後。四。年。也。也。也。也。也。
全。首。也。也。也。

清。信。信。原。也。也。也。也。也。

孝慈皇后崩。葬。神。有。日。月。九。九。落。後。○
日。年。日。月。大。日。中。朔。方。天。河。之。西。年
有。日。八。公。為。九。宗。社。改。五。○。主。向。之。西。年
有。日。之。○。主。業。也。給。也。飲。○。日。年。七。月。也。百
在。日。○。日。也。在。年。一。月。也。之。主。也。也。也。
○。日。年。一。月。也。主。○。死。日。也。也。也。也。也。也。

皇英

有業進修の事感念の儀

地保直

之方石大和

長永九子年十二月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日

22

中永九子年九月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日
同月廿二日

湯村(源)寛政(元)年九月...
 寛政(元)年九月...
 九月...
 九月...
 九月...

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)



良志
 一〇〇

友系此

友堂

家改

之音信

有堂之河...
 有堂...
 有堂...
 有堂...

有堂將監

良以

母...
 妻...

知方。禮父者堂勝之弟。長家養育。位。○
慶長。二十一年。四月。八日。○同。八。廿。年。禮。父。在。○
源。和。長。三。郎。少。左。衛。門。守。七。子。廿。年。家。東。○
子。下

台。德。院。種。正。字。之。下。左。後。陣。之。長。松。金。軍。
後。守。之。人。合。款。多。十。種。之。上。位。之。傳。信。之。口。
之。乃。長。生。神。之。子。之。上。位。之。知。深。和。以。之。後。
穿。數。法。之。似。之。象。上。意。之。白。和。以。之。成。
水。之。日。向。之。之。如。右。後。者。其。為。之。今。之。名。

之。次。後。府。之。為。右。
於。後。極。之。直。之。乃。同。部。之。之。名。也。在。之。○
竟。水。之。在。之。年。七。月。八。日。之。病。死。之。程。程。深。谷。
祥。雲。寺。并。

真心
者。堂。乃。監
左。門
知。方。之。在。之。者。堂。之。上。之。所。之。但
者。堂。之。之。之。之。左。前。脚
左。利



母恩

分知事在令者堂北後与組
有堂平古也 長年

母 松金普庵子正女

素回向子信成女

父貴將之入内田思上海或一室以地延
母方之禮又松金普庵子正女
貴將之入内田思上海或一室以地延
母方之禮又松金普庵子正女
貴將之入内田思上海或一室以地延
母方之禮又松金普庵子正女

得之知分内事心少於此行也
自知之成少一室以地延一室以地延
貴將之入内田思上海或一室以地延
母方之禮又松金普庵子正女

正女松金普庵子正女
素回向子信成女
貴將之入内田思上海或一室以地延
母方之禮又松金普庵子正女

弟の孫と形又の孫の和知の孫を
 正名代地を以て仕人としておぼせ
 候知事及申達の上の御用儀に付
 申付候事は御用の寛永三年一月
 多徳院梅の上丹大徳院の御用儀に
 付候事は御用の寛永三年九月
 大徳院梅の上丹の御用儀に
 付候事は御用の寛永三年九月
 大徳院梅の上丹の御用儀に
 付候事は御用の寛永三年九月
 大徳院梅の上丹の御用儀に
 付候事は御用の寛永三年九月

法橋の因平年十月十六日
 刻意知事は仕人としておぼせ
 村の上丹の御用儀に
 付候事は御用の寛永三年
 大徳院梅の上丹の御用儀に
 付候事は御用の寛永三年
 大徳院梅の上丹の御用儀に
 付候事は御用の寛永三年
 大徳院梅の上丹の御用儀に
 付候事は御用の寛永三年
 大徳院梅の上丹の御用儀に
 付候事は御用の寛永三年

宣和二年之御書也其文曰
右之御書在公府也其文曰
所自之御書也其文曰
於御地也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰

87

宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰
宣和二年之御書也其文曰

御書

宣和二年之御書也其文曰

母日御書也其文曰

書少治之長子之孫女

即享年七十少治之孫也

百治之享年七月十日卒性温之入福之
年二月十日父福死同日卒同日卒
○皆為忠信忠厚存心之德之長年十月
十日卒死七粒米也所少治守葬

有堂九節九節

江子節

於往為樂

良惟

初良水

88

母少治之長子之孫女

妻有堂早八節良水女

家水之享年四月二日早書後為之享保平
八十年四月七日病死少治之孫也
十月六日病死同日卒年二月六日病死
七粒米也同日卒

良水

有堂早八節

於往為樂

母者堂身命母身命
妻山本新多坊某女

室曆七年十月十六日家督の門下當年
平政組の長子元年二月八日麻也書
法入家督の命を以ての門下九月十六日病死
七歳歳同身命

良貞

右堂山本

母山本新多坊某女
妻行是助之信女

天明二年十二月百家督上書清月日
厚年室山本月日病死日柱七歳同身命

良修
良屋

右堂山本

右堂

母行是助之信女

妻山本新多坊某女

高之百俵

天壽元年十一月廿五日
六年十二月廿五日
平乃乃乃乃

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

90



平姓

家牧九曜 丸内淑酸草

豐馮

高田首儀

上法介臣兼少右豐馮高田之祖
武常公臣代豐馮之節康家口程守
清光 武州豐馮郡 清流武元國臣人
豐馮劫存由屋乃泰德天代市之場
經忠陽子氏古乃忠江思成

泰人

豐馮平命

伏見の丸屋代
母 日見部之重乃其女

喜内前涼屋乃其女

天保八年夏五月父忠次遠居江見代其初
長形親以之其子曰百保大正番父之妻
其子曰男作十郎忠次其子之孫也其子
二十一年五月十日卒百病死年之八
四三三三三三
同年年身

豊後守屋乃

奉行

91

母 内者源江乃其女

喜之知

大敵源江乃其女
大敵源江乃其女
大敵源江乃其女

死年之八乃其女

豊後守屋乃

作

奉行

母 内者源江乃其女

喜 江原源江乃其女

寛文七年十二月廿一日、大納言の家督の
○元禄十八年七月、病死の拾九
○元禄十八年七月、病死の拾九

豊後守 陳介十倉

恭能

母 江島源三郎

妻 豊後守 田原市十郎昌建女

天和二年九月、大納言の家督の元禄十八
年九月、自家督の家督の元禄十八年九月
七月、病死の拾九
元禄十八年七月、病死の拾九

豊後守 陳介十倉

恭基

母 豊後守 田原市十郎昌建女

妻 豊後守

寛文七年十二月廿一日、大納言の家督の元禄十八

年六月四日。家督の病歿。寛文九年正月
 廿四日。家督の病歿。以後。日蓮宗。寛文九年正月廿六日
 病歿。以後。以後。寛文九年正月廿六日
 病歿。以後。以後。寛文九年正月廿六日
 病歿。以後。以後。寛文九年正月廿六日

敬奉

家母
 家女

家母

家女

寛文九年正月廿四日。家督の病歿。以後。日蓮宗。寛文九年正月廿六日
 病歿。以後。以後。寛文九年正月廿六日
 病歿。以後。以後。寛文九年正月廿六日
 病歿。以後。以後。寛文九年正月廿六日
 病歿。以後。以後。寛文九年正月廿六日
 病歿。以後。以後。寛文九年正月廿六日
 病歿。以後。以後。寛文九年正月廿六日
 病歿。以後。以後。寛文九年正月廿六日
 病歿。以後。以後。寛文九年正月廿六日
 病歿。以後。以後。寛文九年正月廿六日

同有舞

○寛延元年九月八日...
○寛延元年二月...
○寛延元年七月...
○寛延元年八月...
○寛延元年九月...

恭道

豊後守

養子 孫太郎

母家女
喜外山女
喜内山女

寛延元年二月...
寛延元年七月...
寛延元年八月...
寛延元年九月...

○寛延元年七月...
○寛延元年八月...
○寛延元年九月...
○寛延元年十月...
○寛延元年十一月...
○寛延元年十二月...

九月廿二日在湯村檢爲江戶御所江戶之
廿二日二箇年十月廿二日江戶御所江戶之
上院町檢二箇年十一月廿二日江戶御所江戶之
十月廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之

97

月九日大令檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之
○同廿二日在湯村檢爲湯子更御所江戶之

青原寺之流海村上院口上院今殿
元禄七年十月十日子孫有物二回年月
月五日臨村有物二回八年九月五日臨村有
物二回年十月十日臨村有物三回今殿
同九年四月十日臨村有物二回今殿
三回十月十日臨村有物三回九月十日
臨村有物二回年十月十日臨村有物三回今殿
同十年九月十日臨村有物二回九月十日
臨村有物二回年九月十日臨村有物三回今殿
月十日臨村有物三回今殿年十月十日
臨村有物二回年十月十日臨村有物三回今殿
年臨村有物三回今殿

96

平性
豐治

家紋 九曜

字三石

上院分長兼有寺豐治助解由爲
康保坊里代或紅筆書臨村有物三回今殿

豐治市之儀

總志

天正十一年 於 濱府

燈現極古 自見知行二百石。死



後

忠次

豊後守 長門守

崇徳天皇後天保八年

控取御上之旨 旨石守長江口成友

左後陣之旨 旨意江守長江口成友

二願山守長江口成友 旨旨初支合陣

中山守長江口成友 旨旨首長江口成友

載(元元) 旨旨二年 旨旨首長江口成友

99

赤

忠次

豊後守 長門守

頼朝成法の子孫

権取御上之旨 旨旨首長江口成友

勝心

豊後守 長門守

家督の御上成友の旨 旨旨首長江口成友

絶

泰久

豊清半郎

去甲申年八月廿一日
令吉豊清

忠泰

豊清半郎

初忠廣

父公長治氏友初病凡長代利。豊清
平申年一月廿五日

98

正保元年九月廿日
所遭豊清

泰利

豊清七三郎

七三郎

今豊清

白井平三郎

勝久

寛永九年八月廿一日

正保二年九月

某 白井平三郎
母依久白井平三郎
之(在)長藏中
原藏云、は後平
右京左衛門尉

某

白身年七甲

正徳元年九月... 伊藤年七甲... 初月拾日... 在... 横濱...

忠勝

豊後市... 忠勝

100

家... 正徳元年... 忠勝

恭亮

河恭昌

豊後市... 市平

延寶六年... 七月... 正徳元年... 忠勝

嘉保九年七月廿七日新嘗の嘉保九年
嘉保九年二月廿七日死に接いで同日葬

其妻清内御前也表於二

豊後市麻生町

敷

恭次

嘉保九年六月廿日家督の同年十月
九月廿日申年三月廿日死に接
以て元文二年六月十九日病死の同年
年三月廿日死に接い同日葬

其妻

豊後市麻生町

小三郎

恭定

其妻 恭定

元文二年一月廿日病死の同年
十二月九日大嘗の延享元年十二月十二日
病死の翌年延享元年十月病死の宝暦
元年十一月十日大嘗の同日葬
十月十日病死の同日葬の安永元年二月二
月廿日死に接いで同日葬

恭郷

豊清市郎左衛門 徳光

言三百石 口豊清市郎左衛門

安永九年二月
上ノ事奉多ク
天徳四年二月
口豊清市郎左衛門
七年一月十日
上ノ事奉多ク
七年十月十日
口豊清市郎左衛門

寶曆十一年十一月廿四日見
年八月廿七日見
左書ノ事奉多ク
上旨令取付
上旨令取付
上旨令取付

恭止

七郎

上旨令取付

年八月廿七日見
上旨令取付

年姓

家紋 九曜

豊清

言三百十九石

豊清市郎左衛門 忠次

二年九月九日

豊清市郎左衛門

七郎

恭利

初代見之市人
九申年
氣力多ク

与力正徳三年三月七日
保正二年八月廿九日
并

英海内
左記

恭記

正徳三年二月廿七日
正徳三年三月廿七日
正徳三年四月廿七日
正徳三年五月廿七日
正徳三年六月廿七日
正徳三年七月廿七日
正徳三年八月廿七日
正徳三年九月廿七日
正徳三年十月廿七日
正徳三年十一月廿七日
正徳三年十二月廿七日

104

奇蹟

實久志
豊後
是之助

武松

平次郎恭記

正徳三年九月廿七日
正徳三年十月廿七日
正徳三年十一月廿七日
正徳三年十二月廿七日
正徳四年一月廿七日
正徳四年二月廿七日
正徳四年三月廿七日
正徳四年四月廿七日
正徳四年五月廿七日
正徳四年六月廿七日
正徳四年七月廿七日
正徳四年八月廿七日
正徳四年九月廿七日
正徳四年十月廿七日
正徳四年十一月廿七日
正徳四年十二月廿七日

今日新規上水方乃方改役。安永元辰
年七月之。小普信方。同年八月之。也
燒失。江。常信。四月。同。二十年。六月。共。存
令。或。救。時。版。二。同。年。十月。共。五。五。指
是。直。也。修。後。也。用。同。年。六月。共。五。指
拾。六。枚。同。六。自。年。二月。言。同。三。場。流。痛。言
也。用。同。年。三月。共。八。日。銀。五。枚。同。年。九月
共。九。吹。上。大。九。通。名。不。也。修。後。也。用。銀
十。枚。同。年。十二月。共。十。五。百。五。細。之。以。天。的。云
乙。年。六月。十日。川。船。役。不。也。用。五。合。方

且。出。府。内。并。在。志。助。三。月。之。信。色。船。之。烟。年
注。向。用。江。也。用。合。方。後。也。用。之。信。色。後
同。年。十月。共。五。百。五。細。之。以。天。的。云
枚。所。在。也。也。也。同。年。十月。共。五。百。五。細。之。以。天。的。云
程。所。在。也。也。也。同。年。十月。共。五。百。五。細。之。以。天。的。云
十。字。川。船。役。及。兼。役。同。年。十月。共。五。百。五。細。之。以。天。的。云
四。字。船。役。同。年。十月。共。五。百。五。細。之。以。天。的。云
大。字。船。役。同。年。十月。共。五。百。五。細。之。以。天。的。云
合。字。船。役。同。年。十月。共。五。百。五。細。之。以。天。的。云

檄○日年十二月廿七日 将姫居後

入樂御用相物有獲取捨取骨外
又用向城心有^{○日年三月廿七日}列後取^{○日年三月廿七日}○宣政

元貞年二月十六日御婚礼御用取物

有取捨取○同年八月晦日漢以殿

事○日三成年六月十日以取改取

兼取御免是進上情骨外取物取

時取二○日六成年二月十六日亥月

十日梳町急山火之長漢御殿地火進

了交支取之者情上防之後和了身方

直云列條條之獲取取取○日七

卯年四月十九日^{○日年三月廿七日}兼林業

上院及物取取○日九七年九月日

也病戶取取取^{○日年三月廿七日}御用向手所

○也細二取取取中安永七成年五月

廿一日

若恭院様御用勤^{○日年三月廿七日}令取取取取○天取

元丑年十二月十日

若若様御用勤^{○日年三月廿七日}相物取取^{○日年三月廿七日}右日取○日二

寅年同六午年迄年、今迄收宛

○安永七年十二月廿五日、所用多

和印以三月迄七收。○同九子年、天所

六午年迄、隔年迄指收宛

○安永八年、天所之卯年迄

持姫君様、所用和印以三月満年迄七收

○同文三年、口七、去年十二月

種姫君様、所用和印以三月迄七收

○同文四年、口七、去年同是年

109

三月中、濱西庭向、格出和印、骨形、以骨

迄七收宛。○同七卯年十二月廿四日、濱

西庭、御成、衣骨形、以骨、迄拾收

○翌辰年、去年迄、每言、迄拾收

○同八辰年、十二月廿八日、濱西庭、菓草

持付、所米、菰、見、忌、未、和印、以、骨、苗、辰年、

迄七收宛

常俊

豊后市十郎

初新次郎

天保八申年六月廿一日初見○寛政
二戌年三月十日園的 上院入五和
或及○同十年十二月廿七、十八人

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一 豊后国 但平次常備男史外豊后守城之豊后
左衛門近義

堀河院治平常法元年 上院左衛門近義
左衛門近義 堀河院治平常法元年 上院左衛門近義
具書之在上方 御書之在上方 御書之在上方
御書之在上方 御書之在上方 御書之在上方
御書之在上方 御書之在上方 御書之在上方
御書之在上方 御書之在上方 御書之在上方
御書之在上方 御書之在上方 御書之在上方
御書之在上方 御書之在上方 御書之在上方

平塚の郡上宗具堂は塚の社に後因石
半の埋り平今存立は右の作境因
傍今城在年々は昔古楽守り
四休社務の形は右具堂塚の
豊後古の作系祠有行の塚系
中相分る中右の社に昔豊後門
の如取村の昔鬼塚の塚近道有
この中富水に河の頂里民古の社平
塚の社地遷り塚中何れも事
年月相分る中この文の年中平塚

城の右近村に古橋の里居信豊後塚
此の河の傍養の塚中

一武州豊後郡の塚に古の古元
中川の中村石井の塚に關東豊後
豊後古の塚に塚に下平の塚
此の塚に塚に塚に塚に塚に
この塚に塚に塚に塚に塚に
塚に塚に塚に塚に塚に塚に
塚に塚に塚に塚に塚に塚に
塚に塚に塚に塚に塚に塚に
塚に塚に塚に塚に塚に塚に

別當殿今福寺古殿或為國領内郡之地方凡

之後方石余量由是立之

余十二村社以并附 滝野川村 十名村 板橋村

新田村 中里村 等也 之

之再之修補法方有 文四九年 日月量

高嶺平福殿石神并城隍了 城隍殿要

害者悲 為城隍天部地其境及荒

壞之處

大猷院在平代 宣永年中 石之子信院社

改乃事社石舟建 作有石長之祖由社

法定之文号今 中社信 山福有於子

孫孫有成 中社信 山福有於子

寺信 信部者 相信 信部者

寺信 信部者 相信 信部者

納金石丸

有德院極 信元 文丁巳 年信 信信

寺信 信部者 相信 信部者

寺信 信部者 相信 信部者

尸父公在後以名令瑞守省衛司中緘
其初成治道既其私善又豐治之常之所
恭仍之右至是寫之成回公者公長其德
中古為藏狀書者文多之公始其果代
儒者遺之性古也地(由)其善其國年
中飛鳥公律伐完其來之長公之得之
後先祖之事以然野神在之事一多解
文中亦在公也公古在得之治一帖在
之字相送持信也

一 豐島城之左在公又高村之左子其治小

古所系者為事六年豐治那令秋
村建了平為行秋而号世尊守守高守
东叙公依令秋之章考納在古藥師以
今之安重且兼其不相知德承之古書
一 卷持信也

仁王五代從桓武天皇十二代從北条四郎
遠江守平時政治天下七代相續入道高時
家繼之德用相續次帝時行智亦武別
豐島城之左在公又高村之左可
遠江守平時政相續此間之子德守其系

村之為名者子改此宗豐源山右師常考
後有豐源宗家名号九道乃能之也其
從五位輝時律令管從得是利左大臣
源基氏之或別從豐源山是立之也其
公利宗子部在安永九年九月十日自
輝時以部總行院令後乃新所
建立一伽藍而尊弘法大師之御藥
師像也並以大僧部僧衆為住持別
号世尊寺

應永十一年申歲五月十二日

一 豐源郡上石井村名頂山密雲院之室
寺之事不存并住之豐源山之師宗約
法名時代應永元年申年領因上石井并
其宗時代應永元年申年領因上石井并
村建新義真云道場乃新領所法系
檀友房部幸尊因基之文治五年上石井
并城居城後豐源山右師常考
獨男以勅源氏是村春保相別屬其系
家之祖元應之頃上石井并村之室寺
之父城以國令上石井并村移之也

果代古跡以古園基之守院有唯今之位
解等納重下

一當時親自臨之正法所守之事中其歷
凡百有多年余量當那何先祖名不詳
古義自其言守之建之威光守之守之
年中日蓮之應對出之正法其政威光守
以心号之威光正法所守之事其真
之能法其家之政宗之由之何人先祖之
奉守之水年中其守之守之守之守之
守之守之守之守之

藤原

豐原

先世守之
出羽守守人
守之守之守之守之
守之守之守之守之

勝重
守之守之守之

寛文二意年三月十一日
守之守之守之守之
守之守之守之守之
守之守之守之守之

○同十月廿六日死

勝房

長子京右卿

天和三年十二月十四日家督○元禄元年
年十二月七日以員外少輔定○同十二年
三月五日少輔奉行○宝永元申年九月
廿二日死幼也長子京右卿

勝房

長子京右卿

宝永元申年十二月二日家督○享保九年
八月十三日甲府初番○同九月廿八日以
○寛保二戌年九月十二日死甲府番法寺

勝房

長子京右卿

細江

寛保二戌年十一月五日家督甲府番法寺
小者信○延享二年十一月廿八日家督
年十二月十七日家督改同同治元年十一月
以家督改元自年六月五日

六千五百餘年寺口上

勝蘭

其京為印

其二百倍

寛政元酉年九月七日 亥有甲辰勤事日三
年六月朔 亥有乙酉日自午九日 卯日
丑月廿九日 亥有庚申日等

其京為印

其二百倍

正次
其京為印

寛永年中 涉流之公 好修次 百石位 係
同十八年 三月十三日 死

正次

其京為印

寛永十三年 亥有丙申 〇万石 迄 迄成年 十二月 三日

正重
寛文五十年八月十七日死

正重

寛文五十年八月十七日死

実

寛文五十年八月十七日死

母方従中ノ後ニ長子

寛文五十年十二月十一日死

一日以幼定○貞享二年六月十一日死

○元禄二年五月十一日死

十五年十一月廿二日死

116

永六七年二月十八日死

祭志

寛文五十年八月十七日死

寛永六七年六月廿三日死

月廿三日甲府勤番同死

○寛永三年七月朔日死

本名

寛永三年七月朔日死

寛永三年七月朔日死

二月朔日見

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



車姓

豊田

次收蝶腰車

了百平儀

極村大車の作部外豊田信吉丈五道

也取

五取

豊田合志

安永七年四月迄以上は七権儀中人

扶持之儀中今平年二月八日病中取取

享保九年二月庚子死於山陽所
長之守葬

左雅

葬山陽所

之福享保九年二月庚子死於山陽所
二月廿七日死於山陽所
保元九年十月廿七日死於山陽所
葬

116

左夜

葬山陽所

全名

長坂宗水

小名

享保九年十月廿七日死於山陽所
享保九年十月廿七日死於山陽所

葬山陽所

有德院法華寺中法堂
法華院の堂
中法堂の堂
中法堂の堂

延保の四年十月廿一日
用田の五年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日

119

延保の四年十月廿一日
用田の五年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日
延保の四年十月廿一日

同年月に於ては猶多しと書出るべし
法皇用は元年二月に於ては令或致在也
用中上御位再建山皇令山皇宮法皇用
法皇貴行有安以二年十二月に於ては
七年の月日元年二月に於ては
之御位解不中坊山皇宮法皇用は二月
五年の法皇用は二月に於ては中書
法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮
法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮
法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮

同年月に於ては猶多しと書出るべし
法皇用は元年二月に於ては令或致在也
用中上御位再建山皇令山皇宮法皇用
法皇貴行有安以二年十二月に於ては
七年の月日元年二月に於ては
之御位解不中坊山皇宮法皇用は二月
五年の法皇用は二月に於ては中書
法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮
法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮
法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮法皇宮



百二十年六月廿九日
后のいせ年六月廿九日
葬

反

豊田者之進

三百年字儀

百二十年六月廿九日
年六月廿九日
葬

121

河内河内
公府得同年六月廿九日
葬



122

↓

